

井上侑哉¹・立石幸敏²・坪田博美^{3,1}: コモチネジレゴケが長野県で見つかる

Yuya Inoue, Yukitoshi Tateishi and Hiromi Tsubota: New record of *Syntrichia laevipila* Brid. from Nagano Prefecture, central Japan

長野県下伊那郡大鹿村で、長野県から未報告のコモチネジレゴケの生育を確認したので報告する。本種は葉の先端に長い透明尖があり、茎頂部に多数の葉状の無性芽をつけるという特徴によって日本産の他種と容易に区別することができる(土永ほか1985)。日本からはSaito(1975)により *Tortula pagorum* (Milde) De Not.として兵庫県から報告されて以来、各地の市街地を中心に報告が相次ぎ、現在では関東地方以西の本州から四国、九州まで広く報告されている(Saito 1975, Iwatsuki & Noguchi 1982 [エキシカータ], 土永ほか1985, 岩月ほか1986, 樋口1989, Imura 1994, 成田1997, 樋口・古木2000, 大塚2005, 立石2006, 西村ほか2007, 大石ほか2008など; いずれも *T. pagorum*として)。近年、形態情報に基づいて *T. pagorum* は *Syntrichia laevipila* Brid.のシノニムとされ(Gallego et al. 2004)、分子情報からも支持されている(Gallego et al. 2005)。これに従い、本報告でもコモチネジレゴケの学名を *S. laevipila*としている。本報告地では国道沿いに植えられたイチヨウの大木の根元に40×40 cmほどの純群落を形成していた。また、イチヨウから1 mほど離れたところにある石碑の上にもまばらに生育していた。日本産の植物体では孢子体がこれまで確認されていないが、本報告地の植物体も孢子体をつけていなかった。これまで本種は神社仏閣や公園など市街地でも比較的安定した環境下で多く報告されており、今後、同様な環境下で見つかる可能性が高い。本報告をまとめるにあたり鳳来寺山自然科学博物館学術委員の成田務氏には文献を提供いただいた。この場を借りて深謝いたします。本研究の一部は、科研費MEXT/JSPS(23770089)の助成を受けたものである。

Specimens examined. Japan. Honshu, Nagano-ken, Shimoina-gun, Ooshika-mura, 35°33'00"N, 138°03'12"E, ca. 850 m alt., on bark of *Ginkgo biloba* at open site, 30 July 2012, Y. Inoue 1299 (HIRO); *ibid.*, on stone monument at open site, 30 July 2012, Y. Inoue 1300 (HIRO).

Distribution in Japan. Honshu, Shikoku, Kyushu.

New record from Nagano Prefecture.

引用文献

- 土永浩史・中西哲・神宝節子(1985). コモチネジレゴケの新産地. 日本蘚苔類学会会報 4: 4-5.
- Gallego, M. T., M. J. Cano & J. Guerra (2004). A taxonomic study of *Syntrichia laevipila* (Pottiaceae, Musci) complex. Bot. J. Linn. Soc. 145: 219-230.
- Gallego, M. T., O. Werner, C. Sérgio & J. Guerra (2005). A morphological and molecular study of the *Syntrichia laevipila* complex (Pottiaceae) in Portugal. Nova Hedwigia 80: 301-322.
- 樋口正信(1989). コモチネジレゴケの新産地. 日本蘚苔類学会会報 5: 9-10.
- 樋口正信・古木達郎(2000). 皇居のコケ類. 国立科学博物館専報 34: 89-114.
- Imura, S. (1994). Vegetative diaspores in Japanese mosses. J. Hattori Bot. Lab. 77: 177-232.
- Iwatsuki, Z. & A. Noguchi (1982). Musci Japonici Exsiccati, Ser. 33, no. 1649, *Tortula pagorum* (Mild.) De Not. Hattori Bot. Lab., Nichinan.
- 岩月善之助・井木張二・樋口正信(1986). 岡山県産蘚類覚書. 日本蘚苔類学会会報 4: 85-86.
- 成田 務(1997). 着生コケ植物を指標とした名古屋市の大気環境評価. 愛知県立鳴海高等学校紀要21: 23-38.
- 西村直樹・高田 萌・大西規靖・秋山弘之(2007). 兵庫県淡路の蘚苔類. 人と自然 17: 103-116.
- 大石義隆・村上健太郎・森本幸裕(2008). 京都市におけるコケ植物 *Tortula pagorum* (Milde) De Not.の生育分布に関する研究. 日緑工誌 34: 81-84.
- 大塚政雄(2005). コモチネジレゴケの新産地. 蘚苔類研究 8: 393.
- Saito, K. (1975). A monograph of Japanese Pottiaceae (Musci). J. Hattori Bot. Lab. 39: 373-537.
- 立石幸敏(2006). コモチネジレゴケは四国にもある. 岡山コケの会ニュース 22: 17.

¹〒739-8526 広島県東広島市鏡山1-3-1, 広島大学大学院理学研究科生物科学専攻, ²〒709-4606 岡山県津山市中北上552, ³〒739-0543 広島県廿日市市宮島町三ツ丸子山1156-2外, 広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所)

(受理: 2013年7月1日)